

A会場	B会場	C会場	D会場
<p>W11 植物-昆虫の相互作用における最近の話題 世話人: 戒能洋一・高林純示・米谷衣代</p>	<p>W12 カイコと近縁蛾類の遺伝資源とゲノム-さらなる活用をめざすNBRPの取り組み(2) 世話人: 嶋田 透</p>	<p>W13 第3回イモゾウムシ研究会~初めてのオンライン、数理から共生菌、そして射精物へ~ 世話人: 日室千尋・熊野 了州</p>	<p>W14 殺虫剤抵抗性リスクコミュニケーション2021 世話人: 山本敦司・島 克弥</p>
<p>W1101 ○Torsten Meiners¹ (¹Julius Kühn Institute, GER) Chemical diversity in plant-insect interactions as a tool in biological control</p> <p>W1102 ○Monika Hilker¹ (¹Freie Universitaet Berlin, GER) Priming of plant defense against herbivory by insect egg deposition</p>	<p>W1201 ○伴野 豊¹・福森 寿善¹・藤井 告¹・梶浦 善太²・嶋田 透³ (¹九州大学大学院農学研究院・²信州大学繊維学部・³学習院大学理学部) 世界最高水準のカイコリソースの魅力</p> <p>W1202 ○藤井 告¹・柿野 耕平²・李在萬¹・日下部 宜宏²・伴野 豊³ (¹九州大学大学院 農学研究院 昆虫産業創生学研究室・²九州大学大学院 生物資源環境科学府 昆虫ゲノム科学研究室・³九州大学大学院 農学研究院 遺伝子資源開発研究センター) 混合サンプルのRNA-seq解析によるカイコの致死遺伝子の迅速同定</p> <p>W1203 ○梶浦 善太¹ (¹信州大学学術研究院繊維学系) 野蚕遺伝資源の紹介とヤママユ(<i>Antheraea yamamai</i>)の保存方法について</p> <p>W1204 ○李 允求¹・嶋田 透¹ (¹学習院大学) エリサンとシンジュサンの交雑後代で生じる赤繭形質の発現を支配する遺伝基盤の解明</p>	<p>W1301 ○日室 千尋^{1,2,3}・熊野 了州⁴ (¹琉球産経(株)・²沖縄県病害虫防除技術センター・³琉球大学農学部・⁴帯広畜産大学) イリムサー知とーんが?</p> <p>W1302 ○濱谷 杏子¹・菊池 義智^{2,3}・熊野 了州¹ (¹帯広畜産大学・昆虫生態・²北海道大学・農学部・³産総研・北海道) イモゾウムシの共生細菌が宿主の交尾行動に与える影響</p> <p>W1303 ○田中 愛梨¹・日室 千尋^{2,3,4}・熊野 了州¹ (¹帯畜大院・昆虫生態・²冲防セ・³琉球産経(株)・⁴琉球大) イモゾウムシの雌雄の血縁関係が再交尾に及ぼす影響</p> <p>W1304 ○池川 雄亮^{1,2,3}・伊藤 公一⁴・日室 千尋^{1,2,3}・本間 淳^{1,2,3} (¹琉球産経(株)・²沖縄県病害虫防除技術センター・³琉球大学・⁴ブリティッシュコロンビア大学) イモゾウの不妊虫放飼はオスのみがよいか? 両性がよいか?</p>	<p>W1401 ○山本 敦司^{1,3}・島 克弥^{2,4} (¹日本曹達(株)・²エフエムシー(株)・³農林害虫防除研・抵抗性対策TF・⁴農業工業会・JIRAC) 論点! 殺虫剤抵抗性リスクコミュニケーション2021</p> <p>W1402 ○井上 一¹・坂田 寛樹² (¹JAながみね・²元・JAながみね) 生産者に好評: 柑橘類チャノキアザミウマ多発地域での取り組み</p> <p>W1403 ○森川 由浩¹・浴野 祥予² (¹玉名農業協同組合・²熊本玉名普及・振興課) RACコードを導入したローテーション防除: 冬春トマトでのタバコナジラミバイオタイプQに対する薬剤抵抗性管理の取り組み</p>

E会場	F会場	G会場
W15 沼田英治博士・小滝豊美博士退職記念集会「カメムシの生理学的研究:わかったこと, わかっていないこと」 世話人: 西村知良・粥川琢巳	W16 第28回日本ICIPE協会研究報告会—アフリカ昆虫学のタベ 世話人: 足達太郎	W17 アリをめぐる生物種間の相互作用2021 (JIUSI共催) 世話人: 上田昇平・北条 賢
W1501 ○小滝 豊美 ¹ (農研機構生物機能利用研究部門) チャバネアオカメムシにおける成虫休眠と生殖の研究から W1502 ○沼田 英治 ¹ (京都大学・大学院理学研究科) なぜカメムシを研究してきたのか	W1601 ○コルネットリシャー ¹ ・SHAYKHUTDINOV Nurislam ² ・グセフ オレグ ³ ・黄川田 隆洋 ¹ ・奥田 隆 ⁴ (農研機構・ ² カザン大学・ ³ 理研・ ⁴ Nemli Project LLC) アフリカの半乾燥地帯におけるユスリカ類の乾燥耐性の進化について W1602 ○藤岡 悠一郎 ¹ (九州大学・比較社会文化研究院) 変容するアフリカの昆虫食文化: ナミビア農牧社会の事例 W1603 ○足達 太郎 ¹ (東京農業大学国際食料情報学部国際農業開発学科) 越境性昆虫の社会的側面	W1701 ○山本 哲也 ¹ ・市野 隆雄 ^{1,2} (信州大学理学部・ ² 信州大山岳研) 日本産クチナガオオアブラムシ属とその寄生蜂の寄主特異性と系統的多様化 W1702 ○大谷 郁生 ¹ ・上田 昇平 ¹ ・乾 陽子 ² ・森地 重博 ³ ・平井 規央 ¹ (大阪府大院・生命・ ² 大教大・教養・ ³ 日本鱗翅学会) 絶滅危惧種キマダラルリツバメの寄主アリ特異性と大阪個体群の衰亡要因の解明 W1703 ○松本 恭士 ¹ ・下地 博之 ¹ ・北条 賢 ¹ (関西学院大学・理工) アリの栄養状態がシジミチョウとの共生に与える影響

小集会プログラム 年3月26日(金) 13:00～14:45

A会場	B会場	C会場	D会場
	<p>W21 昆虫免疫夜話 VI 世話人: 芳山 三喜雄・古川誠一</p>	<p>W22 社会性昆虫の化学生態学 世話人: 三高 雄希・田崎 英祐</p>	<p>W23 イネウンカ類個体群の再生産過程とウンカシヘンチュウの免疫的活かし方 世話人: 日鷹一雅・浦野 知・星野 滋</p>
	<p>W2101 ○木村 澄¹ (農研機構畜産研究部門) ミツバチのコロニー防御メカニズム</p> <p>W2102 ○宇賀神 篤¹ (JT生命誌研究館) 発熱はツライが役に立つーニホンミツバチの集団防衛行動「熱殺蜂球形成」ー</p>	<p>W2201 ○秋野 順治¹ (京都工芸繊維大学 生物資源フィールド科学研究部門) セミオケミカルー“いきもの”を知るには欠かせないコミュニケーションツール</p> <p>W2202 ○岩井 碩慶^{1,2}・河野 暢明^{1,2}・富田 勝^{1,2,3}・堀川 大樹^{1,2}・荒川 和晴^{1,2,3} (慶大・先端生命研・²慶大院・政策・メディア・先端生命・³慶大・環境情報) 社会寄生種トゲアリ (<i>Polyrhachis lamellidens</i>) が行う化学偽装とその偽装機構の解明</p> <p>W2203 ○中林 ゆい¹・大島 一正¹ (京都府大・院生命環境) アリ随伴性シジミチョウ幼虫は天敵がいない環境下で共生関係を解消するの か？</p> <p>W2204 ○三高 雄希¹ (京都工芸繊維大学・資源昆虫学) 再利用と文脈依存的な成分追加で生じるシロアリのフェロモン</p> <p>W2205 ○田崎 英祐^{1,2}・井内 良仁^{2,3}・松浦 健二¹ (京都大学大学院・昆虫生態・²鳥取大学大学院・連合農学・³山口大学大学院・創成科学) 社会性昆虫の個体を越えた代謝ネットワーク研究に挑む</p>	<p>W2301 ○浦野 知¹・井上 栄明² (株式会社ベコIPM・パイロット・²三井化学アグロ株式会社) イネウンカ類個体群の再生産過程と天敵利用戦略</p> <p>W2302 ○吉田 陸浩¹ (農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター) 九州地域におけるウンカシヘンチュウの生息状況とイネウンカ類に対する寄生状況</p> <p>W2303 ○日鷹 一雅¹ (愛媛大学大学院農学研究科) 土着天敵ウンカシヘンチュウ、愛媛県27年ぶり再発見から考える有機農業拡大政策での免疫的活かし方</p>

E会場	F会場	G会場